

伏見天皇本影印

源氏物語

十二

古典文庫

伏見天皇本影印

源氏物語

十二

古典文庫

平成六年一月二十日印刷発行
非売品

編者 吉田幸一

発行者 吉田幸一

印刷者 白橋印刷所

源氏物語
十二

発行所

114

東京都北区西ヶ原
三ノ三四ノ一二

古典文庫

電話(三九一〇)二七一七
振替口座東京九・一四五九七番

第十二冊 目次

凡例	三
----	---

咒宿木	五
-----	---

吾東屋	二四一
-----	-----

所収本書誌	三七九
-------	-----

凡例

一、本書には、架蔵『源氏物語』五十四帖三十二冊を十四分冊に複製するに当たり、その第十二冊として、「宿木一帖」と「東屋一帖」の二冊を縮小影印して収めた。

一、影印するに当たり、大体次のようにした。

1 原本諸帖には、首尾に白紙（遊紙）の有無の相異がある。首の白紙一丁には、後人による巻名の押紙が有るものは扉の役目をしている。ないものは、白紙が一丁となる。尾の白紙も同様に、有無の別があるが、本書では、首尾の白紙は各一丁以外は省略した。

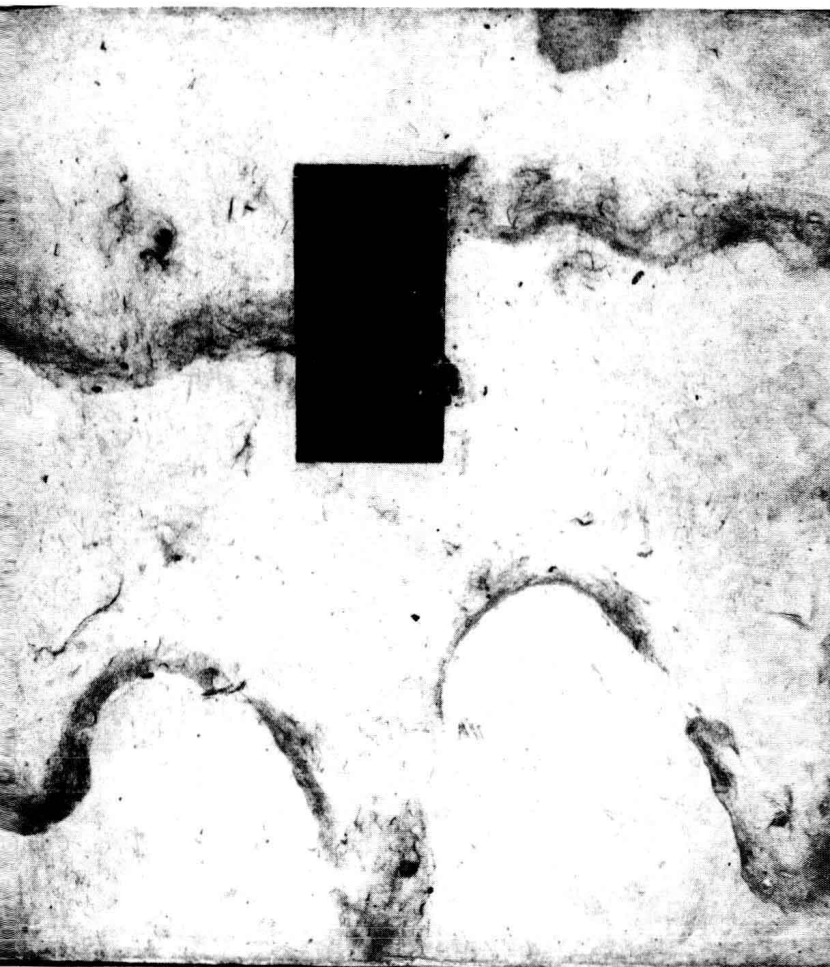
2 原本の丁付は、各帖の巻ごとに付けたが、合一冊の丁付は、最初の扉または遊紙から付け、表・裏の別はオ・ウとした。

3 諸巻合一帖の冊子には、巻名が替わることには、丁付を一オから改めて付けた。

4 五十四帖の卷名は、現今通行の漢字表記とした。(例、檀・朝がお↓朝顔。
蘭・ふちばかま↓藤袴。)

5 モノクロ影印での原本の汚れは、表紙は文様の剝落、本文は多く火水による損障部分、裏うつりが出ている場合に限るといつても過言ではない。そういう状態を主として知っていたべく為に、原色版を別に一括して、十四冊中、比較的頁数の少ない冊子に納れる予定である。

6 書誌は、各冊(十四分冊)ごとに、巻末に記した。



宿木（表紙）



宿木（見返し）



宿木（一才）

宿木（一ウ）

其いふもあらはれがさすきふゆゑの故
友大友の清いかんたんなさ——言ふ
ゆゑ東家さういふさういふ時人
よりゆゑにさういふさういふに
さういふさういふさういふに
いふにもの——いふにさういふに
さういふさういふさういふに
中家さういふさういふに
いふにいふにさういふに
いふにさういふにさういふに
いふにさういふにさういふに

きくはたしきそにむ
すさかろくはむらり
にうまひいそむちの
しなくむらりそむら
しむらりそむらり
あけそむらりそむら
しむらりそむらり
きくはたしきそにむ
すさかろくはむらり
にうまひいそむちの
しなくむらりそむら
しむらりそむらり
あけそむらりそむら
しむらりそむらり

宿木（二ウ）

[illegible]

一、
 己の心を
 清く
 正しく
 する
 こと
 二、
 己の心を
 清く
 正しく
 する
 こと
 三、
 己の心を
 清く
 正しく
 する
 こと
 四、
 己の心を
 清く
 正しく
 する
 こと
 五、
 己の心を
 清く
 正しく
 する
 こと
 六、
 己の心を
 清く
 正しく
 する
 こと
 七、
 己の心を
 清く
 正しく
 する
 こと
 八、
 己の心を
 清く
 正しく
 する
 こと
 九、
 己の心を
 清く
 正しく
 する
 こと
 十、
 己の心を
 清く
 正しく
 する
 こと

宿木 (三ウ)

まてちのむらゝもろゝふ——
は——わろゝもろゝふ——
ふ——むらゝもろゝふ——
ふ——むらゝもろゝふ——
ふ——むらゝもろゝふ——
ふ——むらゝもろゝふ——
ふ——むらゝもろゝふ——
ふ——むらゝもろゝふ——
ふ——むらゝもろゝふ——
ふ——むらゝもろゝふ——

[illegible]

宿木（四ウ）